

みんなが知らない

アフリカ のこと



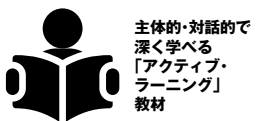
※表紙の風景写真は、右上から時計回りに、青ナイル滝(エチオピア)、キリマンジャロ山が見えるアンボセリ国立公園(ケニア)、ヨハネスブルグ(南アフリカ)、ルアンダ(アンゴラ)、マサイの村(タンザニア)、アルジェ(アルジェリア)。

2021年5月1日 初版発行
発行：独立行政法人 国際協力機構(JICA)
本書に関するお問い合わせ：JICAアフリカ部アフリカ第三課
〒102-8012
東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
Tel：03-5226-8215(年末年始土日祝日を除く9:30~17:45)
E-mail：6rta3@jica.go.jp
URL：https://www.jica.go.jp/



監修：落合雄彦(龍谷大学 法学部 教授)
編集制作：株式会社 ワン・パブリッシング
編集協力：株式会社WILL
表紙写真：©Getty Images, ©Shutterstock.com
イラスト：ルコラニコラ, 伊藤美樹
デザイン：chocolate.

国連SDGs HP(<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>)
The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.



JICAは、日本の政府開発援助(ODA)を行う機関として、開発途上国への開発協力を実施しています。

※国旗は、国連と同じく3:2のサイズで掲載しています。



巨大な大陸 アフリカ!

アフリカは 大きい! スゴイ! 若い!

アフリカは、インド洋と大西洋にはさまれた巨大なアフリカ大陸と複数の島々で構成されます。アフリカ大陸は、メルカトル図法の地図ではそれほど大きく見えませんが、日本はもちろん、中国、インド、アメリカ、そしてヨーロッパのほぼすべての国がすっぽり収まってしまうサイズ。日本だけなら約80個が入る広大な面積です。

アフリカを構成するのは、54の国々と、そこに暮らすおよそ13億もの人々。しかも人口は、2050年にはおよそ25億人に達し、全世界の4人に1人がアフリカの人になると予測されています(国連推計)。

人口構成のグラフが示す通り、まさに「これから」が期待される若いアフリカは、ICT(情報通信技術)など最先端のテクノロジーも使ってさまざまな課題を解決しながら、より豊かな新しい世界を切り開いていこうとしています。

アフリカの位置



メルカトル図法の地図では、赤道直下のアフリカは小さく見えてしまう。



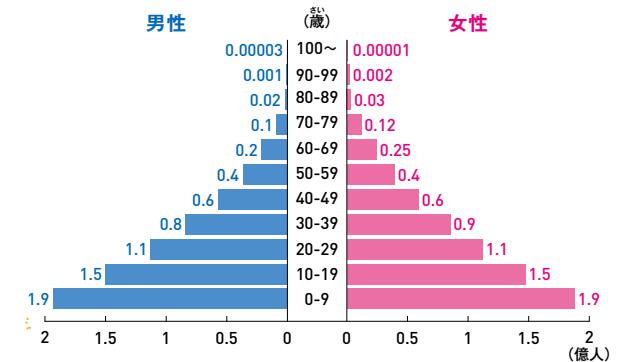
5つの地域に分けると……

広大なアフリカ大陸は、北アフリカ、西アフリカ、中部アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの5つに区分することができます。このうち北アフリカ以外の、サハラ砂漠以南の地域は「サブサハラ・アフリカ」と呼ばれています。

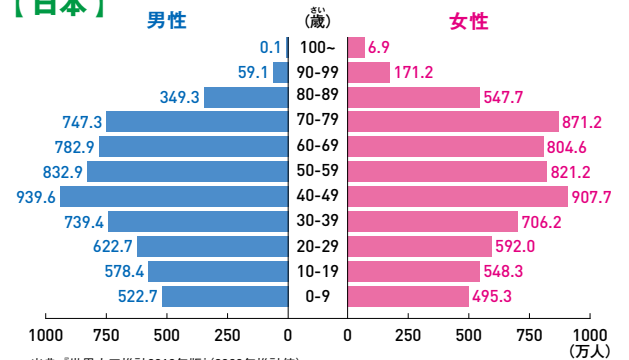


アフリカと日本の人口構成

【アフリカ】



【日本】



出典:「世界人口推計2019年版」(2020年推計値)



けたちがいの **ダイバーシティ!**



©Thomas Amler / Shutterstock.com



©Moosa alruzaifi / Shutterstock.com



©Anna K Mueller / Shutterstock.com



©aniil lakovlev / Shutterstock.com

1,2. 都市とスラムの様子(南アフリカ)。3. 伝統的な家(南スーダン)。4. バナナビーチ(サントメ・プリンシペ)。5. ナミブ砂漠(ナミビア)。

アフリカといえば、大自然を連想する人が多いかもしれません。世界最長のナイル川、キリマンジャロのような高い山、世界三大瀑布に数えられる巨大な滝、湖、数々の美しいビーチや森林など、アフリカは大自然と生態系の宝庫です。

しかし、アフリカの魅力は大自然だけではありません。多様な民族がもつ独自の文化、ファッション、アート、おいしい食べ物、音楽や踊り、明るくフレンドリーな人々。これらもアフリカの大きな魅力なのです。

使われている言語も、英語、フランス語、

ルワンダの壁を飾る模様。



©Alamy / PPS通信社



ルワンダのかご。

©M-alqersh / Shutterstock.com



ガーナのかご。

©高原アートギャラリーハケ岳



©JICA

モザンビークの武器アートや木彫りの像。



©JICA



©えひめグローバルネットワーク



ポルトガル語、アラビア語といった外来言語のほか、スワヒリ語、ハウサ語、ズールー語、アムハラ語など200種類以上といわれています。2か国語以上を話す人も少なくありません。

私たちの想像をはるかに超えるスケール

の多様性(ダイバーシティ)に富んだアフリカですが、そこにはさまざまな課題もあります。しかし、その課題を乗り越えて国を発展させていこうというエネルギー、未来に向かう「若い力」に満ちているのも、またアフリカなのです。



世界がうらやむ 資源の宝庫!

サハラ砂漠

大西洋から紅海まで、アフリカの北部一帯を占める世界最大の砂漠。

ナイル川

ウガンダなど10か国を通る、世界最長の河川。エジプトから地中海へ注ぐ。

ヴィクトリア湖

面積6万8800km²。3つの国にまたがる、世界で3番目に大きい湖。

メバチマグロ

キハダマグロ

セレンゲティ国立公園

キリマンジャロの裾野に広がる、広大なサバナで、野生動物の宝庫。世界遺産。

マダガスカル島

動植物が独自の進化を遂げた絶景の島(国)。バオバブ街道も有名。

ヴィクトリアの滝

幅1708m、最大落差108m、世界三大瀑布に数えられる世界遺産。

ナミブ砂漠

およそ8000万年前に形成されたといわれる、世界最古の砂漠。

メルルーサ

フレデフォート・ドーム

世界最大(直径約190km)・最古(約20億年前)の隕石の衝突孔。世界遺産。

石油、天然ガス、ダイヤモンド、金、銅、ウラン、そしてプラチナ、ニッケル、クロムなど携帯電話やノートパソコンといったIT機器の製造に欠かせない多種多様なレアメタルなど、アフリカは鉱物資源の宝庫です。

さらに、木材を産出する森林資源、コーヒー豆やカカオ豆、茶葉といった農作物、魚などの海洋資源、世界遺産や大自然、希少な野生動物といった観光資源も豊富。こうした豊かな資源は、世界中に輸出されるだけでなく、将来的にはそれぞれの国の産業の発展にも結びついています。

地球と人々にやさしい開発を

豊かな資源を輸出することによって、国の経済は発展していきますが、生き物や植物資源の乱獲は環境汚染や生態系の破壊にもつながります。また、鉱物資源をめぐっては武力衝突が起きることもあるほか、資源開発の利益が地元になかなか還元されないといった問題も生んでいます。

有限な資源を大切に活用し、またその恩恵が国内にきちんと行き渡るよう、世界とアフリカは、地球と人々にやさしい持続可能な開発を進めていく必要があります。

SDGsの解説は
14ページに!

石油
天然ガス
ダイヤモンド
金
銅
ウラン
木材

その他の資源(レアメタル)
ニッケル、クロム、リチウム、タンタルなどのレアメタルやレアアースもたくさん埋蔵されています。



注目のアスリートがひしめく!

アフリカでいちばん人気があるスポーツといえば、ボールさえあれば大人も子どもも楽しめるサッカー。そのほかバスケットボールやマラソンなどの陸上競技も、人気のスポーツです。また植民地時代の影響から、イギリス発祥のクリケットやスカッシュ、女子にはネットボールも人気です。

恵まれた体型や身体能力を生かして、世界の舞台上で活躍するアスリートもたくさんいます。

JICAの協力 カメルーン

カメルーンには、JICA海外協力隊の柔道隊員が派遣されています。配属先のコーチたちと協力しながら、ナショナルチームの強化や柔道人口を増やすための活動を続けています。



©JICA

【大迫力の伝統的格闘技】

「セネガル相撲」は、セネガルやガンビアなどに伝わる伝統的な格闘技。腰巻を着けた選手が、直径約20mの土俵で、レスリングにパンチ(プロのみ)や投げ技も組み合わせ合わせて激しく戦います。プロの試合はテレビでも放送され、スタジアムには多くの観客が詰めかけます。



©klublu / Shutterstock.com

セネガル

サッカー

ワールドカップやオリンピックなどで活躍する、サッカーの強豪国の一つ。ヨーロッパのクラブチームで活躍する選手は、子どもたちのあこがれの的です。



©mohsen nabil / Shutterstock.com

エジプト

サッカー バスケットボール レスリング

サッカー、バスケットボール、レスリングの強豪国。テニスやスカッシュも盛んで、スカッシュでは男女ともに、世界ランキングに何人もが名を連ねています。

陸上 (長距離)

ケニア/エチオピア

世界トップクラスの長距離ランナーが数多くいます。マラソンや駅伝選手として、日本の大学や実業団で活躍する人も少なくありません。



©Dave Smith 1965 / Shutterstock.com



©Adam Jan Figel / Shutterstock.com

南アフリカ

ラグビー

ラグビーの強豪国。スポーツが盛んな国で、夏季オリンピックでのメダル獲得数も86個と、アフリカでは2番め。クリケット、競泳、ボクシング、ゴルフなどでも、何人もトップ選手が生まれています。



©Mai Groves / Shutterstock.com

JICAの協力 ボツワナ

女子ソフトボールのナショナルチームの躍進にも、大学や実業団での活動経験を生かしたJICA海外協力隊のソフトボール隊員が貢献しています。2017年から3年間、中京大学女子ソフトボール部とも連携。監督と部員たちがボツワナを訪れ、グラウンド整備や技術指導、練習試合などを行いました。



©JICA

JICAの協力 ケニア

女子バレーボールは、1979年から日本の指導者による指導が行われ、1992年から今まで、15人のJICA海外協力隊のバレーボール隊員が派遣されています。隊員はナショナルチームに加わり、監督やコーチらと連携して、技術指導や戦術データの分析などを行い、チームの東京オリンピック出場権獲得に貢献、アフリカの強豪に育ててきました。



©JICA

JICAの協力 タンザニア

スポーツ競技会への女性の参加が少ないタンザニア。女子に男子と同等の機会が与えられる社会の実現へ向け、タンザニア政府とJICAが協力して、2017年から女子陸上競技会「LADIES FIRST」が開催されています。



©JICA

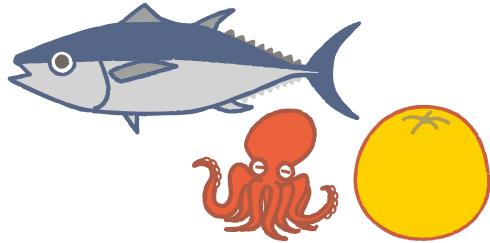
※上の地図で示した国境は、2021年3月時点の国際連合が発表している地図に準拠しています。



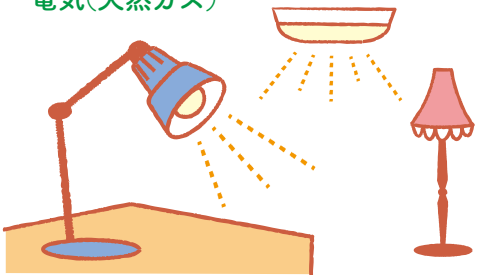
身近なモノでつながっている!

アフリカ ▶ 日本

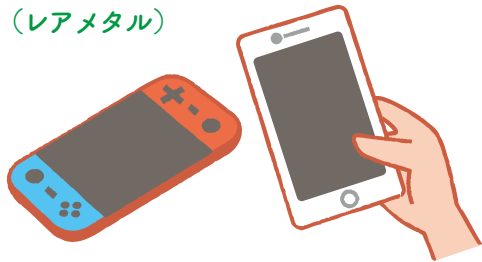
海産物・農産物



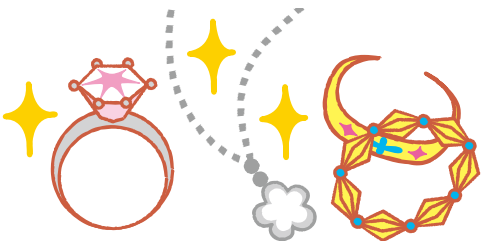
電気(天然ガス)



ゲーム機・スマートフォン (レアメタル)



アクセサリ (金・プラチナ・ダイヤモンド)



約1万2000kmも離れているアフリカと私たちは、実はたくさんの身近なもので毎日つながっています。たとえばオクラ、すいか、ごまやガーベラの花はアフリカが原産地。コーヒー豆や、チョコレートの原料のカカオ豆、お菓子づくりに使われるバニラビーンズや、タコ、グレープフルーツなどのほか、石油や天然ガスなどもアフリカから多く輸入されています。

また、テレビ、パソコン、スマートフォン、ゲーム機などの製造には、アフリカが産出するレアメタル(地球上に存在する量の少ない金属)は、なくてはならない素材です。

コーヒー・チョコレート (コーヒー豆・カカオ豆)

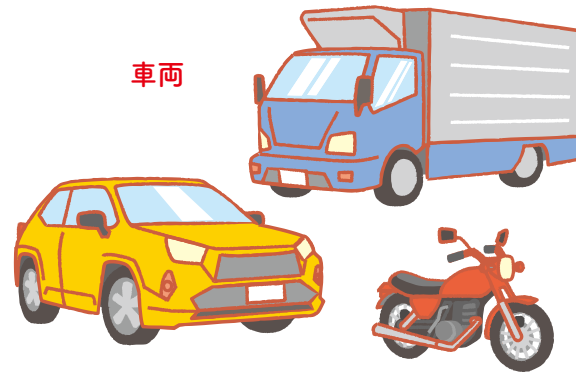


バニラアイス・スイーツ (バニラビーンズ)



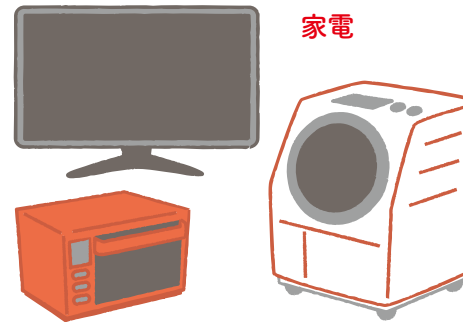
日本 ▶ アフリカ

車両

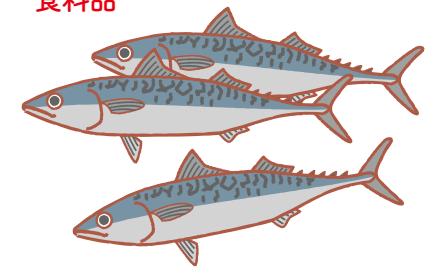


日本語が書かれたままの中古車も走っている。

家電



食料品



まんが 漫画・アニメ



アニメイベントでは、キャラクターに扮したコスプレイヤーも集まるなど、一部の人たちに人気が高い。

アフリカから日本へさまざまなものが輸入されると同時に、日本からも多くのものがアフリカへ輸出されています。

その代表格は車。日本車の人気は高く、どの国へ行っても、町にはたくさんの日本の乗用車やトラック、バイクが走っています。中には日本語で学校や企業の名前が入ったままの中古車も。

便利な家電や生活用品のほか、『ドラえもん』や『ナルト』など、人気の漫画やテレビアニメを通じて日本を知っている人もたくさんいます。



人もこんなに つながっている!

アフリカで暮らす日本人の人々

モノだけでなくヒトも、アフリカと日本を行き来しています。現在アフリカに住む日本人は、約7500人(2019年)。アフリカでビジネスを展開する日本企業をはじめ、日本大使館やJICA、国際機関、NGOなどの活動を通じて、国際協力を行うおおぜいの日本人がいます。

レストラン



日本



アフリカ



南アフリカの回転寿司店。



©Minami Ugand solutions Ltd.

ウガンダ初の自動車学校を営むのは日本人。



国際協力につながる人々

現在、感染症やテロ、環境破壊など世界各地で起こる問題は、遠く離れたところに住む私たちの生活にも影響を与えます。こうした地球全体をおびやかす問題は、一つの国の力だけでは解決できず、世界各国が力を合わせて取り組む必要があります。

国際社会全体の平和と安定、そして発展のために、開発途上国・地域の人々を支援することを国際協力といいます。国際協力には、日本からもJICAをはじめ、さまざまな団体、大学・研究機関、民間企業、そして市民が関わっています。

JICAって知ってる?

国際協力のうち、政府による資金や技術の協力を政府開発援助(ODA: Official Development Assistance)といいます。JICAは、日本のODAを実施する機関として、世界約150か国で活動を行っており、アフリカには年間約3000人の日本人専門家・調査団員と約1000人のJICA海外協力隊員を派遣しています(2019年度実績)。

アフリカでは、保健、教育、水衛生、環境といった社会の課題解決のための協力や、インフラの整備、産業人材の育成、ビジネス環境の整備、平和構築・復興支援、難民・避難民の自立支援などに取り組んでいます。

JICA海外協力隊って?

それぞれの国のニーズに見合った技術や知識、経験をもち、それを「開発途上国の人々のために生かしたい」と考える人を募集し、日本から世界の国々へ派遣する事業です。55年以上にわたる長い歴史をもち、これまでに5万5000人を超える人々が参加しています。



©JICA / Koji Sato

初歩的なソフトの使い方から本格的なパソコン操作までを教えるJICA海外協力隊員。(ウガンダ)



©JICA / Shinichi Kuno

農業の専門家が、畑の耕し方などを具体的に指導していく。(南スーダン)



©JICA / Takeshi Kuno

活動の合間に子どもたちと遊ぶJICA海外協力隊員。(ルワンダ)



©JICA / Takeshi Kuno

送配電線の作業現場で、日本人技師が、電柱を設置する作業を指導。(ガーナ)

日本で暮らすアフリカの人々

一方、日本に住むアフリカ人は約1万8000人(2019年)。各国大使館員やビジネスマン、留学生、サッカーや陸上競技などのスポーツ選手、タレントとして活躍している人もいます。大都市では、アフリカ料理を出すレストランが徐々に増えており、北アフリカ発祥のクスクス(世界最小のパスタ)は広く知られています。

そして今、増えているのがアフリカからの

留学生です。JICAでは、これからのアフリカ経済を支え、日本とアフリカのビジネスのかけ橋となる若い人材を育てるための留学プログラム(アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ))を2014年から開始しました。2019年までにアフリカ54か国すべての国から、合計1200人以上が留学生として来日しています。



こんなふうに 進んでいくよ!

SDGsって知ってる?

SDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)は、2015年の国連サミットで採択された、すべての国が取り組む世界全体の目標です。地球上の「だれ一人取り残さない(leave no one behind)」ことを目指し、2016年から2030年までに取り組むべき、17のゴールと169のターゲットを定めています。SDGsは開発途上国だけに向けられた目標ではなく、私たち一人一人が取り組み、達成するべきユニバーサル(普遍的)な目標です。

SDGsでつくる未来

アフリカは、広く大きく、資源も豊富。めざましい経済成長を続け、人口も年々増加中の若い国々は、ポテンシャルも高く、大きな可能性に満ちています。

とはいえ現時点では、アフリカ(特にサブサハラ・アフリカ)は、解決しなければならないさまざまな課題をかかえています。

JICAは国際社会の一員として、SDGsの視点に立って、アフリカの輝く未来を応援しています。

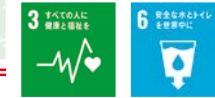


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



貧しい人をゼロに!

国は豊かになっても、サブサハラ・アフリカではまだ、約41%の人が1日200円以下で暮らす生活をしています。貧困の原因として、十分な食料やきれいな水が手に入らない、教育が受けられない、仕事に就けないなど、多くの問題があります。JICAでは、貧困をなくすため、教育、保健、職業訓練、インフラ整備など、さまざまな協力を続けています。



病気を減らそう!

サブサハラ・アフリカでは、13人に1人の子どもが5歳までに病気などで亡くなっています(2018年)。JICAでは、医療従事者やお母さんたちへの、妊娠・出産・育児に関する指導や、予防接種の実施、安全な水が手に入るようにすることで、死亡率の減少などに貢献しています。



学校へ行こう!

義務教育を受ける年代であっても、働かなければならない、制服や学用品が買えないなどの理由で学校に通えない子どもがいます。地域によっては、学校、教室、教師が不足しているという問題もあります。JICAは、みんなが質の高い教育を受けられるよう、学校の建設や教師の育成などの協力をしています。



多くの人に仕事を!

アフリカで最も多くの人が従事する仕事は農業ですが、生産性の低さや、十分な収入が得られないなど課題もあります。JICAでは、かんがい施設をつくったり、農業指導を行ったりすると同時に、作物を販売につなげることで収入を得られるよう協力をしています。一方、都市部でも教育や職業訓練を通じて、より多くの人が仕事に就ける社会を目指しています。



だれもが安全に暮らせるように

アフリカには今も一部で紛争が続く国があり、また過去の紛争によって、家を追われて難民居住地で生活する人や、環境が劣悪なスラムなどで不安定な生活をする人がいます。

JICAでは紛争の予防や、平和で安定した社会づく

りのため、司法や警察を担う人材を育成する協力をしています。

また難民・避難民に対しても、インフラや教育環境の整備、保健医療の改善、職業訓練などを通して、人々が自立していくための協力を行っています。